

1 学校教育目標

【教育目標】

校是「天下第一関」のもと、高い知性・豊かな情操・強い意志・健やかな身体を育み、円満な人間性と社会性とを備えた真に次代を担うにふさわしい人材の育成をめざす。

- ・「知・徳・体のバランスのとれた人間形成」をベースに据えつつ「生徒一人ひとりの進路実現」を目標に教育活動を推進する。
- ・「3年間を見通した教育活動」を推進するために「全教職員で協働して取り組んでいく体制」の強化を図る。

【中・長期目標】

- ・単位制に基づく特色ある教育課程を編成し、多様化する生徒の進路選択に適切に対応することにより、生徒一人ひとりの進路実現に努める。
- ・学習習慣の確立による学力向上と授業研究・授業評価の推進による授業改善に努め、地域の期待に応え得る進学実績の向上を図る。
- ・積極的情報発信及び地域との連携による、開かれた学校づくりに努める。

【26年度重点目標】

- ①学校運営：学校運営に主体的に参加し、PDCAサイクルによる改善・充実を図る。
また、OJT等の推進により、資質能力の向上を図る。
- ②学習指導：3年間を見通した継続的・組織的な学習指導により学力向上を図る。
- ③生徒指導：自主・自律の校風を尊重しつつ品位ある生活習慣を確立する。
- ④進路指導：3年間を見通した継続的・組織的な指導により希望進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

【学校運営】

- ・進路指導を中心に組織的な学校運営が進んでいる。昨年度からHPに「西高ブログ」を掲載し、積極的に情報発信に努めているが、今年度もさらに本校の良さを外部にPRする活動を進めていくことが大切である。
- ・百周年記念事業にむけて具体的な内容を検討し、早めに行動に移していく必要がある。

【学習指導】

- ・全体の学力向上に努めるために、学力層に応じた取り組み（課題内容、課外授業、補習授業、添削指導）を工夫していく必要がある。
- ・教員の授業力向上のために積極的に研修等に参加し、生徒の興味関心を引く授業の工夫に努める。

【生徒指導】

- ・登校指導や全校終礼等での指導を通して、挨拶、時間厳守、服装、集団活動など生徒の規範意識は高まっている。
- ・学年、生徒指導部、教育相談部の連携によって生徒情報を共有し、適切に対応している。今後はスマートフォンなどの通信機器によるトラブルが生じないように、指導をさらに強化していく必要がある。

【進路指導】

- ・進学実績向上のために職員の意思統一と部活動を通しての進路指導など、生徒の進路実現に向けて様々な角度から指導をしていく必要がある。
- ・進路検討会では3年間の進路指導の流れを考え、各学期ごとにテーマをもって行い、効果的な運用に努めている。検討会の意義を明確にし、生徒の現状把握、教員の指導力向上、保護者との連携強化に繋げていくことが大切である。
- ・生徒の「志」を育て、高い目標に向かってお互いにチャレンジする意欲を持たせることで、上位層を育てていく必要がある。

【教育相談】

- ・配慮が必要な生徒に対して、学年、スクールカウンセラーと密に連携し、早期に対応できた。今後も情報を共有することで、早めの対応を心がける必要がある。
- ・人権教育においては外部講師の講演で一定の成果を得た。授業で扱いにくい人権問題をどのように取り上げるか課題である。

【図書情報】

- ・各種データの一元化が進み、不都合な部分を修正しながら新システムの運用が進んでいる。
- ・セキュリティ等に関する個人的な支援は行っているが校内の研修会等も実施していく必要がある。

【健康安全】

- ・環境衛生検査を実施し、環境改善に役立てた。
- ・学校欠席者情報収集システムによって、周辺校の感染症情報もいち早く入手することができるようになった。

【理数科】

- ・先端技術体験学習については、新たな内容で実施し満足度の高いものとなった。それを、課題研究に繋げる工夫が必要である。
- ・普通科とは違う理数科の魅力（良い点）を積極的に外部に情報発信していく必要がある。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

【学校運営】

- ・メール配信システムの改善に向けて研究し、「下西ブログ」の安定運用に努めていく。
- ・百周年記念事業については概要が決まり、その実現に向けて具体化していく。

【学習指導】

- ・新教育課程の移行にともない、授業進度等の様子を見ながら教育課程を改善し、長期休業中の課外授業等の利用も検討していく。
- ・生徒の多層化に応じた課外を企画し、きめ細かい学習支援を行う。具体的には早朝課外や土曜講座において基礎・標準講座の開講を目指す。また、3年次、部活終了後の放課後課外も検討していく。
- ・小テストや週末課題等は、生徒の実態に併せて軽重を考えながら実施し、教科の枠を超えた調整役の教員を配置し、生徒が過剰に負担を感じたり、また不足を感じたりしないように調整する。

【生徒指導】

- ・「いじめアンケート」の実施後の分析で、教育相談、学年との連携をさらに進める。
- ・携帯電話、スマートフォンの安全な利用に関する講習会を開き、さらに注意を喚起する。

【進路指導】

- ・進路指導の業務の遂行が基本的に学年単位であるため、計画の段階で前年度の踏襲の形になっている。進路指導部内の縦のつながりを強化することで業務改善が可能であると考えられたため、月に1、2度はミーティングを行い、全体の把握を行っていく。
- ・成績不振の生徒に関しては、うまく学習に向くことができるよう、担任だけでなく、教科担当や部活動顧問などと面談を行い、教員全体で生徒を支援していく体制を強化する。

【教育相談】

- ・支援の効果なく改善が見られないケースに対し、どのように対応したら良いか研究する。
- ・生徒がスクールカウンセラーをもっと身近に感じられるように「SCだより」を発行する。

【図書情報】

- ・情報セキュリティ意識向上のための研修会を実施していく。

【健康安全】

- ・環境美化に対する意識の向上を図る。また、PM2.5、黄砂、光化学スモッグなどの動向にも臨機応変に対処していく。
- ・生徒・職員・保護者からのアセスメントを参考に、更に環境整備・改善に努める。

【理数科】

- ・課題研究においては、綿密な授業計画をもとに実施時間を確保し、探求活動が効果的に深まるようにする。また、研究テーマの決定、予備実験を丁寧に扱い、充実した活動ができるよう支援する。
- ・研究成果のまとめや発表は校外の山口県理数教育研究大会等を見据えて、技術を高めさせ準備させる。
- ・高校では実施困難な先進的科学技术等に関する体験的学習を目指し大学等と連携を取り計画・実施していく。また、体験学習が進路選択の一助になるよう、事前・事後の指導を工夫する。

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	学校行事の円滑な運営	・入学式、卒業式の円滑な準備と運営・業務分担の検討を行う。 ・校外研修の時期・内容を検討し、業者選定を円滑に行う。 ・卒業アルバム製作者選定を円滑に行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	保護者との連携促進	・PTA活動の活性化をはかる。 ・新聞委員と連携し、PTA新聞の紙面の充実を図る。 ・情報部と連携し、ホームページから積極的に情報発信を行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	情報発信の推進	・メール配信システムを円滑に運用する。また、システムの改善を研究する。 ・ホームページを活用して機動的に情報発信できるようにする。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	百周年記念事業に向けた準備体制の整備	・百周年記念事業実行委員会と連携し、百周年記念事業の円滑な推進を図る。 ・関連資料等の収集を進め、より具体的な活動を進める。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
学習指導	授業時間の確保と適切な学習指導及び学習環境の整備	・時間割係による日課変更により、授業時間の確保に努める。また、臨時休業等に対する授業時間の確保について各分掌と連携をとり対応する。 ・新入生に対して、学習オリエンテーション・自学自習の時間・週末課題等を計画的に実施する。また、各学年と連携をとり、成績不振や学業に不安を抱える生徒をフォローしていく。 ・3年2学期末考査後の授業や1・2年学年末考査後の授業の編成を計画的にスムーズに行うとともに授業時間の確保に努める。 ・教室や廊下を中心に校内の美化に努める。教室内の机、椅子等の整備を計画的に進めていく。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	授業改善に向けた研修等の充実と新教育課程への対応	・情報や課題を共有して各教科、各学年の縦横の連携を図るとともに、学力向上委員会の中で必要な手立てを検討していく。 ・中学校の研究授業への参加を促し中高連携を推進するとともに、新入生への指導に役立てる。 ・年1回の公開授業を実施し、積極的な参観を呼びかける。また、各教科でテーマを決めて授業研究に取り組む。 ・授業評価を生かした授業改善の実施とシラバスの内容の充実改善を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	3年間を見通した継続的・組織的な学習指導体制の構築	・課外の充実をはかる。 ①1、2年生の英語、数学については早朝課外(基礎、標準)、土曜講座(発展)を原則実施する。 ②土曜講座については、発展講座だけでなく、基礎・標準講座の開講も推進していく。 ③3年生については、6月以降放課後の課外の実施を確認し、開講の推進を図る。 ・予備校等の教科指導向上プログラムや各大学別問題分析会などへの参加を呼びかける。 ・面談資料において、学習時間・進路意識を調査し、生徒にフィードバックする。面談資料の内容について検討を行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	新教務システムの円滑な運用	・情報部と連携して成績処理、出欠統計、指導要録において教科担当及び担任の業務を支援する。 ・進路指導部と連携して新教務システムのデータの活用を進めていく。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	効率的な学習計画によって基本的な学習習慣を確立させる。	・Daily Reviewを利用し、その日にあった授業のポイントをまとめさせて授業内容の定着を図る。 ・月間学年通信により早めに行事等の連絡をする。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	基礎学力の充実を図るとともに自ら課題を見つけて学ぼうとする姿勢を育てる。	・学年の教科担当者間で調整し、生徒の学力が最大限伸ばせるよう、課題などを設定する。 ・朝学にしっかり取り組ませ、さらに2年生としての学習習慣の確立に努める。 ・授業等を通して、思考力を育てる。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	大学受験をふまえた授業内容の充実と課外を通して確かな学力の定着を支援する。	・授業を中心に、早朝課外や部活動引退後の放課後課外、朝学、添削指導等で大学入試に対応できる学力を身につけられるようにする。 ・アラカルト講座など志望校に適した講座を設定する。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	理数教育の充実	・1学年には「サイエンスキャンプ」などへの参加を促し、理数に関する興味・関心を高めさせる。 ・2学年で行う課題研究の質的向上を図るため、綿密な指導計画を立てて実施し、考察や研究レポート作製が十分にできる時間を確保する。 ・先端技術体験学習の内容について、時間をかけて大学や関係機関と協議し、充実させる。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				
	理数科の情報発信の推進	・西高ホームページの理数科に関する情報更新を定期的に行う。 ・西高ブログを通じて、理数科に関わる活動をその都度発信する。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。				

生徒指導	基本的生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・SHR、授業等を通して時間厳守の意識を徹底する。 ・服装、頭髪等の指導について、教員の共通理解を図り全教員による指導の機会を設ける。 ・全教員による月2回の登校指導を実施する。 ・クラス、全校集会等あらゆる機会を通じてマナー意識の向上をはかる。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	自他の生命を尊重する豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回「いじめ」に関するアンケート調査を実施し実態把握に努め、いじめ対策委員会を通して学年、教育相談と連携し対策を講じる。 ・携帯電話、インターネットによる書き込み等の注意を喚起するため人権教育担当と連携するとともに、生徒向けの研修会を開くとともに、機会を捉え保護者への啓発も行う。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地震を想定した防災避難訓練および防犯避難訓練を実施する。 ・交通安全教室を実施する。 ・携帯電話も含めた貴重品の管理を徹底する。 ・不審者情報などを速やかに生徒に知らせ、登下校時等の危機管理意識の向上を図るとともに、速やかな通報等その対応の指導を行う。 ・危機管理上必要な時に、全校集会、学年集会等をもち、意識の徹底を図る。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	自分を含む「個」を大切にすることを育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・始業前、昼休み、終礼後に教室に向き個々の生徒と話をするチャンスを多く作る。 ・生徒面談について、短い時間で回数を増やす。必要があれば時間をとって面談し、それぞれの生徒の問題点を早期に見、把握する。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	中堅学年として上級生と協力し、下級生の模範となるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年集会を定期的実施し、規律ある学校生活が送れるように指導する。 ・校外研修を通して集団行動の意義を学ばせる。 ・学校行事では上級生と協力して充実したものとなるようにさせる。 ・担任だけでなく学年全体で、保健室や教育相談部と連携をとり、生徒の問題解決を図る。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	最上級生としての規範意識を持たせ、リーダーシップが発揮できるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は最上級生として下級生を引っ張っていける集団作りを心掛ける。 ・学校行事だけでなく、日常生活や委員会活動・生徒会活動などでも積極的に動ける集団になるよう支援する。 ・学年集会を定期的に関することで、志を高く持たせたり、日常を振り返らせたりするための機会を作る。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
進路指導	3年間を見通した継続的・組織的な進路指導体制の見直しと効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会や進路部スタッフミーティングなどを通して、各分掌・学年と連携を図る。 ・NCAの年間指導計画の見直しを検討する。 ・個人面談や三者懇談を充実させ、時期的なトピックや各教科指導の対策など担任によって偏りがでないように標準化していく。 ・学校の進路指導の状況を保護者や生徒に理解してもらうために進路だよりを発行する。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	進路選択能力の育成及び生徒一人ひとりの夢の実現に向けての支援	<ul style="list-style-type: none"> ・NCAとの連携によってキャリアセミナーや大学セミナー、出前講義などを充実させ、望ましい職業観の確立を図る。 ・校外で行われる職場体験やセミナーに積極的に参加させる。 ・大学や職業に関する最新情報を入手・整理し、担任や担当者が生徒に情報提供できるように工夫をする。 ・生徒の進路意識を向上させるためにも、生徒一人ひとりが各自の適性に合った目標設定ができるように指導していく。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	早期に進路意識を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択の大きな指針となる文理選択に対する情報を早めに与える。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	生徒一人ひとりの進路実現のために、志望校をより具体的に決定できるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会を通して生徒の情報を学年として共有し、進路決定の支援、および学習の支援ができるようにする。 ・九州大学をはじめとする各大学のオープンキャンパスに参加させることで、早期の志望校決定の支援を行う。 ・面談、大学セミナー、出前授業を通して生徒一人ひとりが自ら進路決定出来る力の育成に努める。 ・東京大学見学会や様々な機関の行う説明会等を通して、上位層の集団づくりをしていく。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	適切な志望校決定と合格への具体的な取り組みができるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験を各自で分析し、自分の弱点を早く見つける。 ・夏季休業までに志望校の科目を確認し、1・2年の復習や総仕上げをして1年間を見通した計画をたて実行できるように支援する。 ・2学期以降は大学入試センター試験を意識しながらも二次個別試験にも対応できるような学習プランを維持させ、最後まで粘り強く取り組めるように支援する。 ・上位層や下位層だけに注目するのではなく、中位層の生徒に対しても担任面談などを通じて、学習の取り組み等の意識を変えさせていく。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
教育相談	教員間及び保護者との相互理解の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「配慮を要する生徒」について、関係教員で情報の共有をはかり、支援の方法を検討する。 ・定期的に教育相談部連絡会を行うことで、気になる生徒について意見交換をし、状況変化を正確に把握する。 ・保護者会の際、生徒の生活面についても聞き取りをし、支援が必要な生徒の情報を迅速に把握する。 ・1年学年会で、心理検査の結果を必要に応じて提示することで、生徒理解に役立ててもらう。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談だよりを発行し、スクールカウンセラーの紹介、来校日の周知を図る。 ・各担任からの情報を学年・教育相談部で共有し、可能な限りスクールカウンセラーに助言を求める。 ・教職員のカウンセリングマインドの向上のため、随時スクールカウンセラーにアドバイスを求める。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	豊かな人権感覚を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・立案に当たっては、人権教育担当教員が学年団の意向をくみ取り、生徒の実態に即したものとする。 ・県教委人権教育課が上げて人権課題を、すべての教育活動を通じてなるべく多く取り入れていく。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		

図書情報	図書館の充実と読書指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動、図書当番など図書委員の主体性の養成と支援を行う。 ・計画的・系統的に図書の充実をはかり、書籍の購入を円滑に進める。 ・読書会の開催や図書だよりの発行により、読書活動の啓発と普及を進める。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	成績処理等にかかわるシステムの一元化	<ul style="list-style-type: none"> ・成績管理システムをより円滑に活用できるようにプログラムの修正・改善を随時行う。 ・各教員が成績管理システムをうまく活用できるようにそれぞれの業務を支援する。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	校務情報の共有化と個人情報管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・校務で作成したファイルやデータを個人のPCに保存せず、校内LANのサーバーに保存することを徹底する。 ・セキュリティ意識向上のための研修会を実施する。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
健康安全	生徒と教職員が、共に取り組む安全衛生管理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的安全点検を行い即時改善を図る。 ・校内の清掃活動を係活動とリンクさせ活発に行う。 ・学校周辺(通学路など)の清掃活動(クリーン作戦)に取り組む。 ・校内のゴミ減量化・分別を図る。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	生徒と教職員が、共に取り組む健康管理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断結果を生徒・教職員の健康管理に役立てる。 ・保健だよりやHPを用いて感染症情報や学校の取組を適宜公開する。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	生徒と教職員が、共に取り組む生涯スポーツ推進体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・体育的行事において生徒の主体的活動を支援する。 ・昼休み時間の施設開放を通して、生徒の自主的な活動を支援する。 ・新体力テストの生徒へのフィードバックを行う。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
業務改善	学校の組織等	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修等を通して意識の高揚を図る。 ・職場の良好な人間関係づくりに努める。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	綱紀保持意識の高揚				
	日常的な業務	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌間の効率的連携により、組織力の強化を図る。 ・学校のサーバーやグループウェア等を活用し教職員間の情報共有をいっそう進める。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。		
	分掌間の連携と情報の共有				
勤務状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌で効率的な業務遂行に努める。 ・業務内容を見直し、必要に応じて簡素化を図る。 ・生徒や学校の実態に応じた適切な部活動運営に努める。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。			
業務時間の改善					

6 学校評価総括（取組の成果と課題）

7 次年度への改善策